

～食を通じてうるまを元気に～



マルシェレター

vol. 6



発行 うるマルシェ（うるま市農水産業振興戦略拠点施設）
〒904-2235 うるま市前原183-2 TEL 098-923-3911
指定管理者 株式会社ファーマーズ・フォレスト
取材・編集：大須賀 純（元読売新聞記者）

トマタツファーム株式会社
社長 新里 龍武さん



先端ハウスと先進技術で挑む
トマトの周年栽培

うるま市勝連南風原で先進テクノロジーを大胆に取り入れながらトマトの周年栽培に挑戦している農業法人があります。ブランド名「かふートマト」を出荷しているトマタツファームは、社長の新里龍武さん（32）が2021年に設立。経験や勘に頼った農業ではなく、データと数字に基づいた栽培を重視しています。沖縄では珍しい養液栽培に加え、情報通信技術（ICT）を活用した先進技術も取り込む果敢な挑戦に、業界の注目が集まっています。

市立南原小学校にほど近いトマタツファームの畑は、5棟のハウスが並びます。ハウス内に入ると土がありません。固形培地という土の代替物が茎を支え、肥料は水に溶かした培養液を与える「養液栽培」が行われています。さらに、ハウス内外に設置されたセンサーによって、気温や湿度、雨量、日射量を検知し、天窓の開閉や給水が自動で行われています。



液肥は沖縄の水に合わせて調合

IT農業との出会いは研修先

「研修先の農園が環境制御技術を活用して、トマトの養液栽培を行っていました。こんな効率的な農業があるんだ！と衝撃を受け、これなら沖縄でも周年栽培が可能になるんじゃないかと思って挑戦しました」。新里さんは石垣市の農家生まれ。関西の大学を卒業後、4年間の会社員生活を経て、帰郷して農業をしようと一念発起。研修先の兵庫県神戸市・東馬場農園（東馬場怜司社長）との出会いが大きなステップとなりました。



気温や湿度、雨量などの推移をパソコンでチェックする新里さん

しかし、沖縄では前例のない農業のやり方に融資は渋られ、苦肉の策としてクラウドファンディングに着手。2021年1月の募集から3月の締切日まで515万円も集めました。認定農業者になるのにも苦労しましたが、東馬場社長が行政を説得してくれ、3700万円の融資も受けられるように。「不安はありますが、1億円以下なら返せるだろうと思っています」。若い社長は度胸の良さも垣間見えます。

夜間に冷氣循環

沖縄は6～10月の気温が高く、トマト栽培には厳しい環境ですが、トマタツファームではヒートポンプ空調機を用い、夜間にハウス内を気温18度まで下げて周年栽培を実現。換気扇も併用してハウス全体に冷氣を循環させ、電気使用量を抑える工夫もしています。

天窓や給水、ヒートポンプ、換気扇などの機器を複合制御盤「NEXT80」に連携することで、

パソコンやスマートフォンで全ての操作ができるようになっています。この情報通信技術（ICT）を導入した先進的な取り組みにより、週休2日制も実現できています。

データ蓄積ままならず試行錯誤中

今年（2024年）で3作目。10アール当たりの収量はミニトマト約17トン、大玉トマト約30トンを見込みます。県内トマト農家の2倍以上で、好調と思われますが、本人は「売上はちょっとずつ上がっているけれど、計画していた通りには一度もいっていない」と首を振ります。1作目は病気ではほぼ全滅。2作目は人手不足で収量が伸びず、3作目の今年は予想以上の暑さにやられ、思うように出荷できませんでした。データの蓄積が重要な中で、沖縄で夏場をメインに野菜をつくるデータがなく、試行錯誤を続けています。

「来年（2025年）、4作目でしっかり安定させて、5作目は規模拡大を含めて広げていきたい」。農業に挑戦したのは、「沖縄の経済発展に貢献したい。そのためには第1次産業である農業の発展が必要だ」という強い思いから。新里さんのチャレンジに目が離せません。



ハウス内外の環境データを集約し、自動で天窓や空調機などを動かすシステム機器



拠点であり、起点であること お客様と一緒に成長する施設を

うるマルシェ運営事業者

一般社団法人 プロモーションうるま
代表理事 中村 薫

うるマルシェの運営事業者の1社である一般社団法人プロモーションうるまの代表理事・中村薫さん（51）に、うるマルシェの始まりや未来について、お話を伺いました。

——柔軟ですね。実際に利用する人の気持ちを大切にしている印象です。

中村) まずは地元の人に喜んでもらえる場所、利用してもらえる場所でありたい。行政サイドもここを立ち上げる前に2年間、市民の声を聞く取り組みをしてきました。フードコートや広場、調理室みたいな場所もあると良いといった声を大切にして、施設に反映させた形でもあります。

——今後、どういう場であってほしいですか？

中村) 普段、生活する中では出会えない人たちと出会えて繋がり、何かしら面白いことや、これまでには無かった新しい価値が生まれることが理想です。農家さんや作り手がお客様とつながることって普段は、あまりないじゃないですか。うるマルシェのイベントやワークショップなどで交流が生まれて、商品開発につながったり、新しいイベントができたりして、そういうことが自然発生的に起こるといい。それが地域にとって理想の形だと思っています。

大事なのは「モノ・コト・ジョウホウ」が集まる拠点であり、何かが始まる起点でもあること。それと同時にお客様と共に成長していける施設でありたいと思っています。

（聞き手：服部 あや乃）

中村) 一般社団法人プロモーションうるまは、2013年に「100年後のうるまをつくる」という理念のもと設立した“まちづくり会社”です。うるマルシェをはじめとして、市内4つの施設の指定管理や、地域活性化に繋がる事業やイベントなどに取り組んでいます。

——うるマルシェは直売所の賑わいはもちろんですが、イベントを含め全体的に盛り上がっていて、うるま市の拠点施設としてバランスが良い印象です。

中村) うるマルシェは株式会社ファーマーズ・フォレストが直売所とレストランの運営を担い、プロモーションうるまが、施設の維持管理やフードコートのテナントの運営管理、会議室などの貸し施設の運営のほか、広報宣伝やイベント企画を担っています。うるマルシェを「市民の皆様のために、こんな場所にしたい!」という理想があり、2社の得意とするところを組み合わせることで、うるマルシェの持つ施設機能を最大化できると考えていました。

行政サイドも、うるマルシェの設計段階から関わらせてくれました。どういう施設であればお客様が利用しやすいか、運営がしやすいか、行政と指定管理者と一緒にアイデアを出し合いながら作り上げていくことができたのが大きいですし、それが今に繋がっていると感じています。

うるマルシェは6周年を迎えました！

うるマルシェは2018年11月1日にオープンしました。6周年を迎えた2024年11月1日には日頃の感謝を込めて、「生産者様 感謝の集い」を開催しました。

式典では、うるま市農林水産部の座喜味達也部長が、「これからも、うるま市経済の成長エンジンとして成長していくことを願っています」と中村正人市長の挨拶文を代読。続いて表彰式では、各商品部門ごとにうるマルシェへの出荷量第1位の生産者が表彰され、記念品が贈呈されました。

マンゴーの部で6年連続の表彰を受けた徳田政信さんは受賞者を代表して、「昨年度の来場者数は127万人と想定外に伸び、本当にびっくりしている。生活の支えをしていただいて、うるマルシェ関係者のご尽力に感謝している。これからも技術を磨いて、いい品物を届けていきたい」と抱負を語りました。

うるマルシェ生産者協議会のノーマン裕太ウエイン会長（徳森養鶏場社長）は、「畜産はエサが2倍くらい高騰し、どうにかこうにかやっている。うるマルシェという場があって、まだまだ頑張らなければ。うるマルシェがもっと人が集まる場になるよう、全ての世代が一緒になって盛り上げていきたい。頑張っていきましょう」と呼びかけて閉会の辞としました。



受賞した生産者の皆さんら

正しい使い方と記録の大切さ

「生産者のための農薬セミナー」

農薬の安全かつ適正な使用を周知するための「生産者のための農薬セミナー」が2024年11月21、22両日、うるマルシェ会議室で計88人が出席して開かれました＝右写真＝。講師は日本農薬株式会社イノベーション戦略推進担当部長の日野智和さん。

実際に起きた誤使用や使用基準違反の例を挙げながら、回収や損害賠償、風評被害、信用低下の影響を説明。「1人のうっかりミスや誤解で、産地の長年の努

力が一瞬に崩壊する。1人ひとりが責任を全うすることが大切」と強調しました。

そのうえで、農薬名や使用量、使用日時などを記載することの重要性を繰り返し、「記帳は皆様自身を守るし、大切に育てたブランドを守ることに必要」と必要性を訴えました。



会場からは熱心な質問も出て、関心の高さが伺われました。うるマルシェでは、次回開催も計画しています。

<うるま市 商品部門表彰 受賞者>

マンゴーの部	徳田 政信
オクラの部	伊波 理
ニンジン	兼本 和枝
インゲン	金城 将也
甘薯の部	平識 次男
花卉の部	中村 延廣
グアバの部	伊波 豊
肉用牛の部	農事組合法人うるま農場

<うるマルシェ 各部門表彰 受賞者>

総合の部	株式会社徳森養鶏場
ナスの部	照屋 繁
ゴーヤーの部	久場 さおり
トマトの部	トマツファーム株式会社
ヘチマの部	前田 寿
葉野菜の部	ツーフェイス ファーム

うるマルシェ生産者協議会 「頑張る生産者を応援する助成金」受賞者

照屋マンゴー農園 照屋 寛由

（以上、敬称略）

農薬の使用方法に関する 主な問い合わせ先

- ① 沖縄県 中部農業改良普及センター
TEL. 098-894-6521
- ② 沖縄県 農林水産部 営農支援課
TEL. 098-866-2280
- ③ うるま市 農林水産部 生産振興課
TEL. 098-923-7616
- ④ 農薬販売業者（専門店や取扱業者）
- ⑤ 農薬メーカーのサポートセンター